

# かなえ

第13号(平成24年12月1日)  
医療法人社団鼎会 八柱三和クリニック  
千葉県松戸市日暮1-16-2 日暮ビル2階 047-312-8830  
<http://www.yabashirasanwa-clinic.com>



森のホール：21世紀の森公園の森のホールに11月のある日、訪れた。この日は日中でも寒く、スケッチ筆のタッチが心配だ。しかしいったん描き始めるといつものタッチに戻った。すでに多くの葉は落葉し何箇所か吹きだまりを作っている。辛うじて残る葉は風にも負けず、きれいな装いを見せていた。 絵と文：松戸市在住 水彩画家 菅谷功氏

## 晩秋のドイツの思い出 事務局長 佐藤 哲

20年余り前に一時ドイツに住んでいたことがありました。その頃の生活を時々思い出すことがあり

ます。不思議なことに思い出すのは観光客で賑やかな季節のいい春や夏ではなくちょうど今頃の季節の記憶です。

晩秋のドイツは暗くて寒く息の詰まるどんよりとした季節でした。11月に入ると寒さが駆け足でやってきます。大陸性気候なので寒くなりだすと11

月から氷点下になることが珍しくありませんでした。明るさが日に日に失われ、陽の光を感じるができなくなります。雨や雪で天気が悪いのではなく、低くどんよりした霧とモヤに覆われ景色から光と色彩が消えていきます。これから長く暗い冬が始まるのです。

気候だけでなくドイツ社会での暮らしもわたしにとっては辛い記憶です。朝真っ暗な中を職場に出かけ、定時に退社する現地職員を横目に日本との時差の関係で遅くまで残り、暗く凍てつく寒さの中を帰宅する毎日でした。閉店法という法律があり、商店は木曜を除き6時半に閉まります。遅くまで開く木曜でも8時まで。残業が続くと平日に買い物ができません。日曜はほぼ例外なく閉まっており、昼まで開く土曜が勝負です。土曜の朝を逃すと水や食料品が無くなり翌週の生活に困ることになります。

朝寝坊してあわてて飛び込む土曜のスーパー。野菜売り場に行くところの時期はじゃがいもと人参、玉ねぎしか見当たりません。ビールや水はケース単位で買うのですが、容器は原則リユースできるガラス製。環境意識の強いドイツではペットボトルは悪者扱いです。買いそびれることを心配して買い置きをするので、土曜の午前は重い飲み物ケースをいくつもケラー(地下室)に運ぶ肉体労働の日でした。

近所付き合いの中で居場所を見つけるのも一苦労でした。ドイツは暗黙のルールがあってそのルールに厳格な国です。ドイツ語で外国人をアウスレンダーと呼びますが、私たちアウスレンダーはこのルールを守っているか常に観察されている気配を感じていました。洗濯物の干し方(ベランダに干してはいけない)、日曜の午後の安息時間の過ごし方(1時から3時までには子供が遊んで騒ぐことも控える)、雪の日の朝の暗闇の中での自宅前の雪かき(通行人が雪に滑って怪我をすると転んだ家の住人の責任になる)……慣れないうちは戸惑うことばかりでした。これらのルールは長く暗く寒いこの季節を何回か経験しないとわからないことだったように思います。アウスレンダーが地域社会の一員として認められるのは簡単ではありませんでした。

しかし暗く寒く長いこの季節にも楽しみを見つけることができます。手っ取り早いのは明るく暖かいところへの旅行で、当時は東南アジアが人気でした。しかし最低でも2週間単位で休暇を取るドイツ人にとって簡単ではありません。多くの人は毎日の生活の中での楽しみを見つけ、気持ちの良

い環境を整えてこの時期を過ごすように工夫していました。人々は家の中、特に居間を居心地のいい空間にすることに熱心でした。家を訪問すると彼らの口からアンゲネーム(心地良い)という言葉をよく聞きました。家をアンゲネームにすることを大事にしているのだなと度々感じるがありました。キリスト教の背景が分からなければこの言葉を大切にすドイツ人の心を理解するのは難しいのかなと思います。神に受け入れられ、祝福されることの心地よさがこの言葉に宿されているのではないかと思います。(聖書を読んだことのない私にこんなことを言う資格はありませんが)

11月の終わりになるとクリスマスを迎える準備が始まります。生木のツリーを居間に飾り、アドベントのロウソクを日曜日ごとに1つつ灯します。子供たちはお菓子の入ったアドベントカレンダーを毎日開ける楽しみが始まります。市庁舎前に大きなクリスマスツリーが建てられ、広場のクリスマスマーケットはイルミネーションが輝き、クリスマスのオーナメントやリースを売る店が遅くまで開きます。ここだけは閉店法の例外です。寒さは相変わらずですが、たくさんの市民が集まり、熱いグリューワインを飲みながら心を浮き立たせていきます。次第にキリストの生誕を祝う気持ちが高まってくるのです。

鼎会は今、沢山の患者さんや地域の方々の応援・支援を頂き病床の認可をえて病院建設を進めています。道のりは長く険しいことを覚悟しています。鼎会はクリニックを開いてからまだ3年です。晩秋のドイツを思い出しながら地域の一員として認められるよう努力し、八柱を心地よいアンゲネームな地域にすることをイメージし着実に進めていきたいと思っています。

アドベントのロウソクを灯すように・・



## 前例のない事への挑戦 診療放射線技師 和田智子

愛媛県松山市から車で20分、街を離れてからすぐの郊外に「愛媛県立とべ動物園」があります。とべ動物園は敷地面積・内容ともに西日本有数の動物園です。今回、私がここを訪れるのを楽しみにしていた事の一つが、日本で初めて人工哺育に成功したホッキョクグマの『ピース』に会うことでした。

ピースの飼育記録はドキュメントとして、その成長ぶりがテレビで放映されたことでも有名です。国内でのホッキョクグマの出生はそれまでに122頭報告されていましたが、半年以上育ったのはわずかに16頭。極めて生存率が低く、また人口哺育の成功例は全くありませんでした。

今から13年前、とべ動物園で2頭のホッキョクグマの赤ちゃんが生まれました。しかし、2頭は生まれて間もなく母親から育児放棄されてしまったのです。1頭は母親による咬傷を負い、救急処置を施しましたが2時間後に死亡してしまいました。残る1頭を人口哺育に切り替え育てたのが『ピース』です。

母親に代わってわが子同然に育てた飼育係の高市さんの愛情を一身に受け、たくましく成長した『ピース』も12月2日で13歳になりました。とべ動物園一番の人気者『ピース』に皆さんも会いに行ってみませんか？



### 編集後記

12月は何かと慌ただしく、つい「忙しい」と感じてしまいます。以前、仕事をご一緒した大先輩が「慌ただしいは心が荒れると書くよ。忙しいは心を亡くすと書くね。心を亡くさないようにしよう。」と教えてくださいました。きっとその方から見た私の様子を、気にかけてくださった言葉だと思います。あれもこれもと気になって、自分のなかで余裕が無くなる日も、心を込めて一日を過ごさなければならぬと感じました。2012年、締めくくりのひと月。心を込めて毎日診療に取り組んでいきます。小さな余裕が生まれたら、大きな余裕になるように。周りの人や地域とも余裕の共有をし、「助け合い」の実が結ぶような病院を目指します。総務：中野三代子

## 今年もあと1ヶ月・・・ 医事課 酒井美加

早いもので、今年もあと1ヶ月で終わりますね。12月は、クリスマスや忘年会と楽しいイベントも沢山ありいつもより町が賑やかで、キラキラしている感じがします。

私の12月と言えば、クリスマスや忘年会はもちろんですが・・・年明けに行く毎年恒例、初詣の場所を決めること！！

今までには、明治神宮・川崎大師・鶴岡八幡宮・佐野厄除大師などに参拝に行きました。

それぞれに違った顔があり、歴史をほとんど知らない私でも日本に生まれてきて良かったと思う瞬間です。

春や秋に行って、また違った顔もみてみたいです。あと1ヶ月、仕事にプライベートに充実した日をすごせるように一日一日を大切にしていきたいと思えます。

「去年1年をありがとう。今年1年をよろしく。」と言えるように。

今年のくじは大吉でした。はたして来年は・・・。



### 八柱三和クリニック診療医師担当表

		月	火	水	木	金	土
乳腺外科	午前	渡辺 修	渡辺 修	(手術)	渡辺 修	渡辺 修	渡辺 修
	午後	渡辺 修	渡辺 修		(手術)	渡辺 修	
整形外科	午前					浅野健一郎	早田浩一郎 (2, 4)
	午後	小酒井治 (2, 4)			小林洋平	浅野健一郎	
内科 1	午前	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫
	午後	斉藤丈夫		斉藤丈夫	(在宅)	斉藤丈夫	
内科 2	午前	渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	杉崎良親
	午後		仲野総一郎	渡辺聡枝	渡辺聡枝	(高林克日己)	
内科 3	午前	鈴木明子	鈴木明子	鈴木隆弘	鈴木明子		高林克日己
	午後	鈴木明子	鈴木明子	藪下寛人	鈴木明子	鈴木明子	
胃カメラ	午前	渡辺英二郎		古田良司		鈴木明子	
大腸カメラ	午後	渡辺英二郎		古田良司			

### スタッフ紹介

平成 24 年 10 月 1 日より 看護師長として勤務されている柴田典子さんのメッセージです。

看護職を目指したきっかけは小さいころから自立した女性になりたいと思っていたからです。看護師の魅力は、自分の意志や適正で、クリニック・病院・在宅・施設・企業など働く場所や形態が選択できることです。

今はクリニックで仕事をしていますが、毎日新しい出会いや気づきがあり、それも魅力です。患者さんが不快な思いをせずに受診できるよう努力しています。患者さんやスタッフに話しかけてもらいやすい雰囲気を作り、人の話をよく聞きたいと思っています。

八柱三和クリニックのよいところは、クリニックというより病院的な機能の中、信頼できる医師の元で、全スタッフが向上心を持って頑張っているところです。

プライベートでは、動物が大好きで 10 年前に拾ってきたネコをネコかわいがりしています。

長野で父親がひとり暮らしで、月に 1 回は介護に通っています。

良い病院・良い医療・看護とは何でしょうか？皆さまとよく考えて進んでいきたいと思っています。お気軽に声をかけてください。

